

タイトル

中世日本の傑作 益田を味わう ―地方の時代に輝き再び―

ストーリーの概要

海に国境のない時代―中世。山陰地方の西端のまち益田は、その地理と地域資源を活かして、大きな輝きを放っていました。

人々は、中国や朝鮮半島に近い地理と、中国山地がもたらす材木や鉱物などの地域資源を活かして、日本海交易を進めました。領主益田氏は、自らも交易に積極的に関与し、優れた政治手腕を発揮して平和を実現しました。経済的繁栄と政治的安定のもと、東アジアの影響も受け、どこにもない文化が花開きました。

現在の益田にはその歴史を物語る、港、城、館の遺跡と景観、寺院や神社、町並み、庭園、絵画、仏像などの一級品がまとまって残っています。

このように、時代と地域の特性を活かして輝いた益田は、中世日本の傑作と言え、全国でも希少な中世日本を味わうことのできるまちです。



「逆さ地図」に見る益田市の位置（富山県作成の「環日本海・東アジア諸国図」に加筆）。益田は、東京や京都とは離れているが、日本海を通じて中国や朝鮮半島に近い。



萬福寺庭園



益田氏の館・三宅御土居跡